

「心ある医療の実践」を目指した 患者図書室開設のプロセス

ー患者・家族と医療者のパートナーシップー



【春日部市立病院】

○小野まゆみ	宇田川真季子	入田千代
西村宝幸	服部麻理子	蜂矢隆彦
三宅洋	山元恵子	澤田海彦

医療安全全国フォーラム・第5回医療の質安全学会

2010年11月26日～28日



A病院概要

- 病床数：一般350床
- 急性期病院・地域がん診療連携拠点病院指定
- 外来患者数：622人/上半期1日平均
- 入院患者数：231人/上半期1日平均
- 平均在院日数：14.1日/上半期



患者図書室 「ふくろうの森」



病気・治療の本
食事療法・栄養・
検査・薬の本が
あります



約700冊の本を準備



インターネットで検索



癒しの暖炉

本の貸し出しは入院患者さん
対象となります

場所：外来2階

利用時間：平日12時～17時
(8:30～12:00は外来待合室となります)

問い合わせ先：相談支援室

平成22年7月6日作成



問題

1. がん関連パンフレットコーナー・蔵書・DVDは相談支援室の中に設置されているが、相談者以外はほとんど活用していない。
2. 病院の理念である「心ある医療の実践」を目指しているが、患者・家族が、自ら情報収集できる環境が整っていない。

取り組み1

【期間：平成21年1月～4月】

1. 相談支援室の目標(BSC)に
患者図書コーナーの新規設置を挙げる。
2. がん関連パンフレットコーナーを総合受付前に新設。
3. 利用状況調査を開始。
4. 師長会議でパンフレット・DVD一覧の配布、広報。





取り組み2

【期間：平成21年5月～7月】

5. 5月、医療安全全国共同行動“いのちをまもる
パートナーズ”医療安全全国フォーラム「患者・市
民の医療参加」へ参加し、当院の問題点と課題に
ついて発表。
6. 6月・7月、患者図書館の見学。





取り組み3

【期間：平成21年8月～12月】

7. 8月、「医療の質に関する研究会」患者図書室寄贈プロジェクトへ応募。

「医療の質に関する研究会」の患者図書の目的

- ①患者さんが「患者図書室」を活用することで、自らの病気や治療に対する理解を深め、安心と自信を持って医療に参加することを可能にする。
- ②医療従事者が患者さんへの情報提供ツールとして「患者図書室」を活用することで医療に関する説明の質と効率の向上を図る。
- ③将来的に、日本の医療システムに「患者図書室」を組み入れる仕組みを研究開発し、普及させることで医療の質の向上に寄与する。

8. 11月、患者図書室の寄贈決定。





取り組み4

【期間：平成22年1月～7月】

- 9. 2月、図書ボランティア養成講座を実施。
- 10. 5月、図書ボランティアの活動開始。
- 11. 7月、患者図書室「ふくろうの森」開設。
- 12. 7月、医療者用・患者用蔵書一覧ファイルを作成し、
外来・病棟・医療部に医療者用ファイル、外来待合
総合受付前に患者用のファイルを設置。





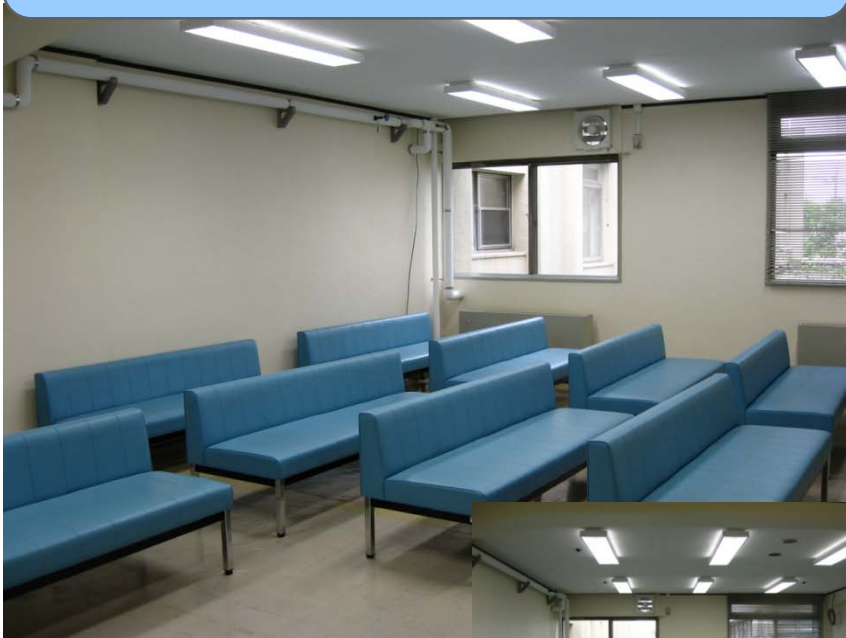
効果1

- 方式：2毛作方式
(2毛作の内容：午前は、患者図書室と外来待合室
午後は、患者図書室)
- 効果：午前利用率61%・午後利用率39%
- 癒しの空間ができ、ゆっくり本が読める、落ち着く
図書室で病気のことを勉強し医師の話がよくわかるようになった等の声が聞かれ、環境が整った。



待合室から患者図書室へ変身

図書室オープン前



図書室オープン後



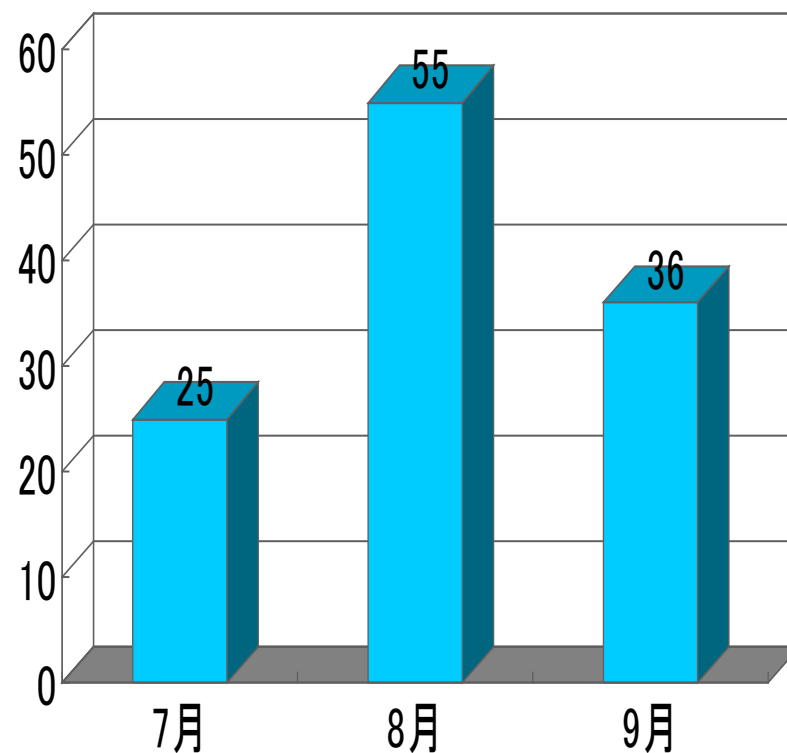
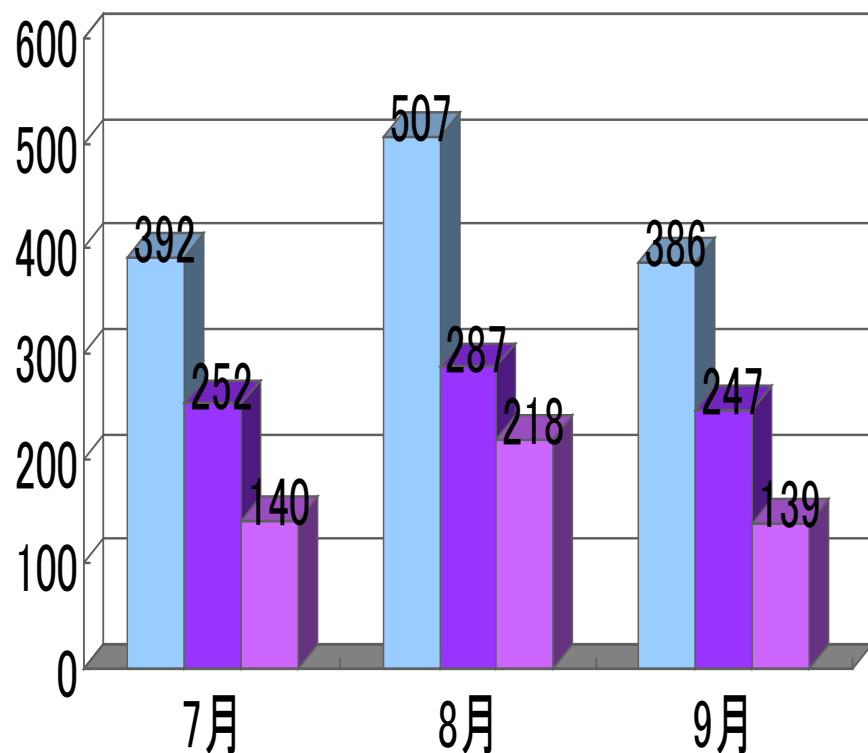
効果2



- がんパンフレットの利用数の増加
平成21年→7282冊
平成22年→4521冊(1～9月まで)
- 患者図書室利用患者で相談機能への連携、7件



平成22年7月～9月 患者図書室利用者数(名)・貸出数(冊)



■ 患者図書利用者数 ■ 午前利用者数
■ 午後利用者数

■ 貸出数





今後の課題

- 図書の利用により、患者の意思決定の支援ができること、相談支援室が管理運営することは相談機能に特化することが可能となる。
- 医療者が患者さんへの情報提供として、図書を活用し医療に関する説明の質の向上を図ることが、より一層のパートナーシップの充実につながる。

